

根室地域における造林作業の軽労化に向けて

根釧 東部森林管理署

はじめに

根釧東部森林管理署は、道東の根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町（1市4町）に広がる約10万6千haの国有林を管理しています。世界自然遺産の知床半島の南面部、羅臼岳を含む自然豊かな山岳、また広大な根釧台地に編み目のように張り巡らされた格子状防風林など景観優美な森林が広がります。



羅臼岳

地域の課題

根室地域の基幹産業は水産業や酪農業であり、林業就労者の確保には地域の森林整備を担う事業体も大変苦慮していると

ところで。また、現在林業に従事している方々にも高齢化が進んでいる状況です。このため当署では「地域に適した伐採及び造林における低コスト作業の普及・定着」を目標として、特に機械化が困難な造林作業の労働負荷を軽減することが重要と考え、取り組んでいます。

造林作業のうち、植付け・下刈りは、作業適期が集中することから、植付けの省力化が可能なコンテナ苗の活用が有効と考えました。

令和元年度の取組

そこで当署では平成30年度から実施している伐採と大型機械地拵の一貫



トドマツコンテナ苗（左）と裸苗

作業及びコンテナ苗を植栽している箇所にプロットを設定して、大型機械地拵による下層植生の回復状況、広葉樹等の天然更新の状況、カラマツとクリーナーチの成長比較などから、コンテナ苗を使用することによる下刈り回数の見直しに向けた影響調査を行いました。



大型機械地拵実施箇所

その結果、一年目の下刈りは下層植生の草丈が苗木丈を上回っていないことやその繁茂状況から、実施を見合わせました。

下刈りを省略した箇所について、苗木の生育及び残存状況等を確認したところ苗木の成長に支障がないことがわかりました。また、この結果は、根室振興局、自治体の林務担当者及び事業体などと

実施した現地検討会でも参加者に確認してもらいました。

今後の取組予定

次年度以降についても、継続した調査を実施してデータ収集を行い地域の関係者と情報共有を図るとともに大型機械地拵のメリット及びコンテナ苗の使用による優位性について理解を深め、造林作業における低コスト及び軽労化の普及・定着に向けて取り組んでいく考えです。

また、これからも民有林支援として技術の普及など具体的な取組を進めて参ります。



現地検討会の様子